真岡市行政評価システム
評価対象年度　平成27年度

事務事業マネージメントシート

作成日　平成28 年　05 月　10 日

事務事業名	地域道路愛護支援事業			担当	建設部　建設課　管理係
政策名	A	暮らしやすさが実感できるまちづくり		電話番号	0285-83-8147
施策名	05	道路ネットワークの整備		☐ 実施計画上の主要事業	
基本事業名				事業期間	☐ 単年度のみ ■ 単年度繰返（開始年度　平成２１年度～） ☐ 期間限定複数年度（　　年度～　　年度）
法令根拠					
予算科目	1.一般会計	2.総務費	1総務管理費	1一般管理費	
事業概要	市民が主体となって地域づくり事業を推進し、思いやりを育み、誇りと愛着のもてる個性豊かな地域を創造することを目的に、区が実施する道路、水路の除草や清掃の取り組みを支援し、「地域で出来ることは地域で」取り組む意識づくりをする。 【助成金の対象となる作業】 ・市が管理する歩道や歩行者専用道路の除草や清掃活動 ・市道や公衆用道路の小枝切（こさがり）や路肩の除草 ・側溝や排水路（農業専用を除く）の清掃活動 【助成金の内容】茶菓子代として２００円／人以内、機械使用料５００円／台（燃料代込）、消耗品（ゴミを入れる袋代、紐等）１，０００円／回 なお、助成金対象の作業は、年２回を限度とする。				

1. 現状把握の部　(1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動）

27年度実績
　区からの交付申請によって、内容審査、交付決定、実績報告書の審査、交付金支払い。

28年度計画
平成２７年度と同様

⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移

	名称	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
ア	事業申請区	区	49	55	54	57	60
イ	事業実施区	区	48	53	54	57	60
ウ							
エ							
オ							

②対象（誰、何を対象にしているのか）＊人や自然資源等

市内全区

⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移

	名称	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
ア	区の数	区	134	134	134	134	134
イ							
ウ							
エ							
オ							

③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか）

地域における道路及びその周辺の生活環境を保全するとともに、道路や排水施設に対する愛護精神の高揚を図り、安全で住み良い地域社会を実現するための事業を支援する。

⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移

	名称	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
ア	本事業に取り組んでいる区の割合	%	35.8	39.6	40.3	42.5	44.8
イ							
ウ							
エ							
オ							

④結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか）

快適な道路・生活環境を保全し、安全で住み良い地域社会を実現する。

⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移

	名称	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
ア	道路の整備状況が良いと感じている市民の割合	%	62.1	62.2	58.7	65.3	62.0
イ							
ウ							
エ							
オ							

(2) 総事業費の推移

				単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
			県支出金	千円	0	0	0	0	0
			地方債	千円	0	0	0	0	0
			その他	千円	0	0	0	0	0
			一般財源	千円	1,394	1,509	1,652	1,838	1,936
	事業費計（A）			千円	1,394	1,509	1,652	1,838	1,936
	人件費		正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1
			延べ業務時間	時間	80	85	85	85	90
			人件費計（B）	千円	336	345	359	356	377
	トータルコスト(A)+(B)			千円	1,730	1,854	2,011	2,194	2,313

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？いつごろどんな経緯で開始されたのか。	草刈や小枝切及び側溝や排水路の清掃等については、職員や業者委託で対応してきたが、今後、益々増加することが予想されることから、限られた予算をより効率的に執行する方策として、平成２１年度から「みんなでつくる地域づくり事業」のメニューとして新たに実施することとなった。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは 5 年前と比べてどう変わったのか？	平成２８年３月に事業１回当たり、消耗品代円を１，０００円に、機械使用料５００円の適用範囲をチェーンソー・高圧洗浄機・電動バリカン等にも拡充した。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	機械の燃料代を使用料と別に交付してほしいと要望が寄せられている。

2. 1次評価の部　＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	■ 結びついている　□ 見直し余地がある 公共施設の維持管理の一部を市民の協力を得て行う事業であり、市民と協働のまちづくりの一環として取り組むもので、「地域で出来ることは地域で」という意識づけが図られ、施策に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	■ 妥当である　□ 見直し余地がある 公共施設（道路、側溝、排水路）の維持管理の一部であり公共関与は妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	■ 適切である　□ 対象を見直す必要がある　□ 意図を見直す必要がある 「みんなでつくる地域づくり事業」のメニューとして実施するものであり、区が対象となっている。 「地域で出来ることは地域で」取り組む意識を醸成し、愛護精神を培うという意図は適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	□ 向上余地はない　■ 向上余地がある 事業実施区が増えれば成果向上が期待できる。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	■ 影響がある　□ 影響がない 廃止すると道路の管理費が嵩むとともに、市民に対する道路愛護精神の醸成の機会がなくなり廃止・休止はできない。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	□ 類似事業がある（類似の事務事業名を記載）　■ 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	□ 他の事業と統合・連携ができる　□ 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ （仕様や工法の適正化、住民の協力など）	■ 削減余地がない　□ 削減余地がある 事業費は、参加者への消耗品代・機械代・飲み物代等であり、人件費的な作業費用は市民の無償ボランティアで実施されており、最小限の事業費であり削減できない。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか （アウトソーシングなど）	■ 削減余地がない　□ 削減余地がある 申請書の受理、審査及び実績報告書の受理、審査等に要する経費であり、最小限の人件費であり削減できない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	■ 公正・公平である　□ 見直し余地がある 地域の公共施設の維持管理の一部を行ってもらうことに対する助成金である。

3. 改革・改善方向の部

（1）改革の方向性（改革案・実行計画）

□ 廃止　■ 見直し（□：目的妥当性　■：有効性　□：効率性　□：公平性）　□ 統合　□ 継続

事業へ参加する区が増えるよう働きかける。

（2）改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？

（3）改革・改善による期待成果

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			○
	維持			／
	低下		／	／

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

（1）1次評価結果の客観性と出来具合　□ 記述説明不足（説明責任不充分）　□ 評価内容が客観性を欠く　■ 評価内容は客観的と言える

（2）2次評価者としての評価結果

①目的妥当性　■ 適切　□ 見直し余地あり　　②有効性　□ 適切　■ 見直し余地あり

③効率性　■ 適切　□ 見直し余地あり　　④公平性　■ 適切　□ 見直し余地あり

（3）2次評価者として判断した今後の事業の方向性

□ 廃止　□ 休止　□ 目的絞込み　□ 目的拡充

□ 事業統廃合　■ 事業のやり方改善

□ 予算削減　■ 予算増大

□ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

（4）その他2次評価会議で指摘された事項

（5）改革・改善による期待成果

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			○
	維持			／
	低下		／	／